



シドニー近郊自治体訪問 ～姉妹都市交流の更なる進展に向けて～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐
小杉 宗和 (埼玉県鴻巣市派遣)、根木 勇也 (福岡県派遣)、伊藤 大揮 (埼玉県派遣)

はじめに

パンデミックに伴う渡航規制が導入されている間、日本とオーストラリアの間の姉妹都市交流は、渡航を伴わないオンラインなどの形態で行われています。一方、シドニー市を州都とするニューサウスウェールズ州では、2021年6月下旬にロックダウン規制がシドニー都市圏で導入されましたが、それまでの数カ月間は州内を自由に移動することができる状態でした。

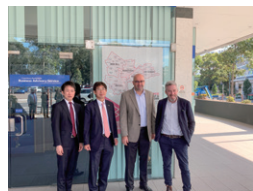
そこで、在シドニー日本国総領事館員とクレアシドニー事務所職員は、日本の自治体と姉妹都市関係にあるシドニー近郊自治体を訪問し、日本の姉妹都市からのメッセージの伝達や、姉妹都市交流の更なる進展に向けた意見交換などを行いました。本レポートでは、3つの自治体への訪問の様子をお伝えします。

カンタベリバンクスタウン市

2021年4月26日、大阪府吹田市の姉妹都市であるカンタベリバンクスタウン市を訪問しました。

同市はシドニーの南西に位置し、レバノンやベトナムや中国からの移民が多く居住している自治体です。移民の増加や西シドニー開発に伴い人口が急増していて、社会インフラの整備などが大きな課題となっています。また、西シドニー大学の新キャンパスの整備が進められており、更なる発展が期待されています。

今回の訪問で、姉妹都市交流を通じて日本の高齢者施策などを学びたいとの意欲をうかがうことができました。



カンタベリバンクスタウン市長(右から2人目)らと市庁舎前にて

ブルーマウンテンズ市

2021年5月12日、兵庫県三田市の姉妹都市であるブルーマウンテンズ市を訪問しました。

世界遺産に登録されている国立公園を擁する同市は観光産業が盛んですが、2019年から2020年にかけて発生した大規模森林火災により甚大な被害を受けるとともに、2020年からは新型コロナウイルス感染症まん延により再び大きな打撃を受けています。

今回の訪問を通じて、森林火災からの復興状況を確認するとともに、姉妹都市委員会メンバーとの意見交換を通じて、三田市との強い絆を確認することができました。



姉妹都市委員会メンバーらにより美しく保たれている姉妹都市友好庭園

ペンリス市

2021年5月24日、静岡県藤枝市および石川県白山市の姉妹都市であるペンリス市を訪問しました。

同市は、シドニーの西約55kmに位置しており、藤枝市とは1984年、白山市とは1989年に姉妹都市提携を締結しています。

ペンリス市長からは、西シドニー空港開港に向けた開発事業や姉妹都市交流についてのお話をうかがいました。同市と2市との間の交流は大変活発であり、コロナ下においても、3市の市長・国際交流協会会長の6人でオンライントップ会談を行うなど強固な友好関係を育てています。



ペンリス市長(右から2人目)らと市庁舎前にて